

弓削商船高等専門学校

【準学士課程・専攻科課程共通】

◎校訓 みなぎる気力と、たゆまぬ努力で、めざそう、悔いなき学生生活
◎教育方針 1. 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成 2. 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、創造力のある人材の育成 3. 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

【準学士課程】

	◎教育目標		◎アドミッションポリシー（入学者受入方針）	◎カリキュラムポリシー（カリキュラム編成方針）	◎ディプロマポリシー（卒業認定方針）
	教養教育	専門教育			
商船学科	幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成	船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成	○求める学生像 ・中学校までの学習内容をしっかり理解しており、船や海に関する勉強をしたと考えている人 ・好奇心や探究心が強く、考える力や判断する力、自分の考えを論理的に述べる力を伸ばしてきた人 ・自立心を持ちいろいろな人と協力しあって行動できる、根気とチームワーク力のある人 ○選抜の基本方針 （推薦による選抜） ・推薦書および中学校における調査書に加えて、面接の結果と国語、数学、英語の口頭試問を総合して選抜します。 （学力検査による選抜） ・学力検査の結果および中学校における調査書を総合して選抜します。 ・学力検査は高専機構の作成した国語、数学、英語、理科、社会の5教科による試験とします。 ・調査書から思考力、判断力、表現力、根気、チームワーク力などを見ます。	商船学科は、海・船・港に関する知識と技術を総合的に学習し、世界で活躍できる海事技術者を育成します。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。 1 低学年では基礎教養科目と共に、航海・機関に関する共通専門科目を配置し、高学年に進むに従い、航海および機関の各コースに関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成します。また、座学や実習などを通し、学生が自身の適性を見極められるよう、航海および機関の各コース選択を3年後期に行います。 2 実習や実験を通してコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけ、外国語をはじめとする総合科目を学ぶことで異文化理解能力を高めます。 3 海技教育機構の大型練習船による航海実習を2年生時に1ヶ月、4年生時に5ヶ月、5年実習生時に6ヶ月取り入れ、座学と実習のカリキュラムを融合させることで実践的な船舶の運営、運用能力を身につけます。 すべての科目はシラバスに明示した学習到達目標の達成を確認するため、試験、小テスト、レポートなどを用いて総合的に評価します。また、各科目の合格によってディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を達成したものとします。	商船学科は、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。 1 航海コースでは、航海学、船舶運用学、海事法規、商船実務など、機関コースでは、主機・補機、電気・電子、機械、商船実務などの知識・技術を身につけている。 2 英語力をはじめとするコミュニケーション能力、異文化理解能力、リーダーシップを身につけている。 3 国内外の海事産業で、船舶の運営や運用ができる。
電子機械工学科	幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成	ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成	○求める学生像 ・中学校までの学習内容をしっかり理解しており、機械や電気、ものづくりに関する勉強をしたと考えている人 ・好奇心や探究心が強く、考える力や判断する力、自分の考えを論理的に述べる力を伸ばしてきた人 ・自立心を持ちいろいろな人と協力しあって行動できる、根気とチームワーク力のある人 ○選抜の基本方針 （推薦による選抜） ・推薦書および中学校における調査書に加えて、面接の結果と国語、数学、英語の口頭試問を総合して選抜します。 （学力検査による選抜） ・学力検査の結果および中学校における調査書を総合して選抜します。 ・学力検査は高専機構の作成した国語、数学、英語、理科、社会の5教科による試験とします。 ・調査書から思考力、判断力、表現力、根気、チームワーク力などを見ます。	電子機械工学科は、機械系・機械システム系の知識と技術を総合的に学習します。また、電気系・制御系を学習します。それによって、ものづくりができる、つまり、計画・設計から生産・保守運用までができる実践的な技術者を育成します。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。 1 機械を構成する材料の物性、加工・生産技術や、機械設計に欠かせない材料、熱、流体、機械の力学、それらに加えて機械を制御する電気工学、情報工学など、幅広い知識と技術をバランスよく学ぶように授業科目を編成することで応用的なものづくりができる力を育てます。 2 低学年では、数学、物理、化学などの理系教養科目、および英語、国語、歴史などの文系教養科目を多く配置し、高学年に進むに従い機械工学、機械システム工学、電気工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、教養と倫理観を身につけ、計画から運用までできる実践的技術者を育成します。 3 実験、実習、卒業研究を系統的に編成し、応用力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を育成します。 すべての科目はシラバスに明示した学習到達目標の達成を確認するため、試験、小テスト、レポートなどを用いて総合的に評価します。また、各科目の合格によってディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を達成したものとします。	電子機械工学科は、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。 1 機械を構成する材料の物性、加工・生産技術や、機械設計に欠かせない材料、熱、流体、機械の力学、それらに加えて機械を制御する電気工学、情報工学など、幅広い知識と技術を身につけ、それらに應用したものづくりができる。 2 豊かな教養と倫理観を身につけ、計画・設計から生産・保守運用までできる実践的なものづくりができる。 3 応用力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持ち、他者と協働できる。
情報工学科	幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成	情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成	○求める学生像 ・中学校までの学習内容をしっかり理解しており、コンピュータを使いこなしたり、コンピュータの仕組みに関する勉強をしたと考えている人 ・好奇心や探究心が強く、考える力や判断する力、自分の考えを論理的に述べる力を伸ばしてきた人 ・自立心を持ちいろいろな人と協力しあって行動できる、根気とチームワーク力のある人 ○選抜の基本方針 （推薦による選抜） ・推薦書および中学校における調査書に加えて、面接の結果と国語、数学、英語の口頭試問を総合して選抜します。 （学力検査による選抜） ・学力検査の結果および中学校における調査書を総合して選抜します。 ・学力検査は高専機構の作成した国語、数学、英語、理科、社会の5教科による試験とします。 ・調査書から思考力、判断力、表現力、根気、チームワーク力などを見ます。	情報工学科は、情報工学、コンピュータネットワーク、電気電子工学の知識を総合的に学習し、ものづくりと創造的で、課題発見能力、解決能力を持つ技術者を育成します。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。 1 ソフトウェア工学、コンピュータネットワーク、組み込み技術分野にわたる幅広い知識と技術、応用力が身につくようにバランスよく授業科目を編成します。 2 地域・社会に貢献できる課題発見能力、解決能力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を育成するために、実験、実習、卒業研究を系統的に編成します。 3 低学年では、数学、物理、化学、国語、英語、社会などの総合科目を主体として配置し、年次進行に従い、ソフトウェア、ハードウェア、コンピュータネットワーク、情報セキュリティ、基礎工学に関する専門科目が多くなるくさび型に授業科目を配置し、さらにボランティア活動を含む地域演習、卒業研究を系統的に編成します。 すべての科目はシラバスに明示した学習到達目標の達成を確認するため、試験、小テスト、レポートなどを用いて総合的に評価します。また、各科目の合格によってディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を達成したものとします。	情報工学科は、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。 1 情報工学、コンピュータネットワーク、情報セキュリティ、組み込み技術の知識と技術を身につけ、それらに應用したものづくりができる。 2 課題発見能力、解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力をはじめとする高い人間力を持ち、他者と協働できる。 3 豊かな教養と高い倫理感を身につけ、地域・社会に貢献できる。